



## 第16回

# 福岡市都市景観賞受賞作品

福岡市都市景観賞審査委員会委員(50名) 敬称略

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 今村 洋子 | 九州朝日放送(株)テレビ制作局編集企画部長 |
| 岡本 均  | 西日本純正大学教授             |
| 落合 太郎 | 九州産業大学教授              |
| 菊地 成朋 | 九州大学大学院教授             |
| 佐藤 豊  | 九州芸術工科大学教授            |
| 永崎 明子 | 九州造形短期大学教授            |
| 西山 徳明 | 九州芸術工科大学助教授           |
| 前 博   | 福岡市都市景観部長             |
| 三浦 佳世 | 九州大学大学院教授             |

今年の景観賞には心の暖まる作品や活動が並んだ。「福岡市文学館」は、従来から市民の皆さんからの推薦が多かったが、景観賞の対象にはしなかった。景観賞が現在の人々の努力を評価し、そのような努力が広がることを望んだためである。今回からその制限をはずした。歴史的なものにも学ぶところが多い。市民が親しく憶い続けていることや維持する努力も評価したい。「箱崎の家」は、古いものを新しく継承するひとつの方法を示し、「日本キリスト教団福岡中部教会」も古典的な表現が都心に奥ゆかしい安心感を醸し出している。「桧原こひつじ幼稚園」は、内側に強い想いを蓄えて、外に理性を持って臨んでいる見事な作品だった。「ピエトロビル」は、控え目だが優しい気持ちがデザインに反映され、多くの市民の共感を得ている。「香椎浜1丁目の桜並木」は、微妙なカーブの連続が心地よいリズムを与え、季節の変化を生活に根づかせているに違いない。

特別表彰の「長丘中公園かたろう会」は、市民参加によって溜池を新しい考え方で整備したもので、市民、専門家、行政の今後の関係を示唆する。エッセーにも秀作がそろった。「視界360度の特等席」「アクロス福岡—旧福岡県庁舎の思い出」「私の景観自慢」を読みながら、それぞれの情景が目に見えようだった。「1本の木」は、小さなモチーフが大きな景観に広がっていく見方が新鮮だった。

今年は、人々の心や内面の活動が外に反映してくるような、深く充実感のある作品や活動が選考された。ここに都市の成熟の方向があると思われるし、その根本を形成している関係者の哲学に感銘した。このような健全で着実な考え方の蓄積が福岡の魅力を深める。昨年と同様に多数の推薦をしてくださった市民の皆さんにもお礼を申し上げたい。景観を育てていくのは市民である。皆さんのすぐれた目が景観をすぐれた方向に導き、景観指導の心強い支えにもなっている。



House at HAKOZAKI

## 箱崎の家

東区箱崎

1990年完成 / 所有者: 中村豊一

設計者: 内田繁・三橋いく代・葉祥栄

施工者: (株)安恒組

箱崎本通りの商店がにぎわう界隈に、明治初期の木造土蔵づくりの町屋が落ち着いた佇まいを見せている。通りに面して右手の部分が新しい漆喰壁で作られた家屋であるが、左手の古い家屋と板塀を隔て屋根勾配なども同じプロポーションで構成され、壁は白色で統一されているため時代の隔たりを感じさせない。ヨーロッパの古い町並みが町全体の色調をトーンイントーンという手法で整えられているため、近代までに作られた建物に何百年という時間差があるにも関わらず、素人見には区別がつかないようにしているのと考え方はまったく同じである。時代を超え、良き物を継承するのにも工夫と勇気がある。新しさばかりが創造性ではないことを教えてくれた。

(審査委員 落合 太郎)

